

## 2・3月学校行事予定表

日	曜	2月行事	日	曜	3月行事
1	金	①②③④、⑤漢字検定 ⑥机点検等、1年介護実習Ⅰ(～8日)、食品流通科課題研究発表会②③	1	金	第65回卒業証書授与式 PTA新聞発行
2	土		2	土	
3	日		3	日	
4	月	①全校集会、3年生出校日、県農クリーダー研修会(社教センター)	4	月	1・2年生成績不振者指導、⑤⑥卒業生との懇談会(1-5、2-5)、現場実習(2-3)～10日
5	火	登校指導	5	火	
6	水	登校指導、保護者食事会(3-5)	6	水	
7	木	成績不振者指導	7	木	
8	金	①一般常識テスト、マラソン大会、PTAマラソン大会豚汁会、推薦入試会場準備15:00～	8	金	
9	土		9	土	
10	日		10	日	
11	月	(建国記念日)	11	月	
12	火	推薦入試(生徒自宅学習)第2回PTA新役員選考委員会	12	火	学力検査
13	水	3年生出校日、追考査	13	水	個性重視の特別試験
14	木		14	木	
15	金	1・2年考査前学習会⑦、「農業科学基礎」プロジェクト発表会(1-1)⑤⑥、第7回PTA役員会・理事会	15	金	
16	土		16	土	
17	日		17	日	
18	月	1・2年学年末考査	18	月	
19	火	1・2年学年末考査	19	火	修了式、2年介護実習Ⅰ事前指導～22日、研究紀要発刊
20	水	1・2年学年末考査	20	水	(春分の日)
21	木	1・2年学年末考査 非行防止親子講演会	21	木	合格発表、転編入考査(新2・3年生)、現場実習(1-3)～25日
22	金	3年生出校日	22	金	合格者説明会
23	土		23	土	
24	日	第3回英検2次	24	日	
25	月	2年進路ガイダンス①	25	月	2年介護実習Ⅰ～29日 農家実習(1-1)～29日
26	火	農ク校内プロジェクト発表会⑤⑥	26	火	
27	水	3年生を送る会⑤⑥	27	水	
28	木	3年生出校日①会場準備 ②同窓会入会式③卒業証書授与式予行④授業 ⑤⑥各部署準備	28	木	
			29	金	
			30	土	
			31	日	



### ◎環境緑地科1年生親子松竹梅作り 環境緑地科 大久保裕司



12月22日(土)に環境緑地科1年生と保護者と一緒に正月の縁起物である松竹梅盆栽の制作を行いました。生徒は事前に授業で一度制作しているため、今回は生徒が先生となり保護者の方に教えながら親子で仲良く制作されていました。制作後には全員で豚汁をいただき、親子の絆が深まった良き1日となったと思います。

### ◎ハゼ並木剪定ボランティア 環境緑地科主任 藤井安壽



1月15日(火)福岡県指定天然記念物「柳坂曾根の櫛並木」樹勢回復のための剪定ボランティアに、環境緑地科3年生38名が取り組みました。284年の歴史を誇る櫛並木ですが、老木であり温暖化の影響等もあって樹勢が弱っています。そこで、樹勢回復のための管理作業に取り組みました。

**校納金の納入はお早めに!**  
※校納金の納入は毎月20日までとなっています。銀行の口座振込による納入の方は、預金残高が不足にならないようお願いいたします。

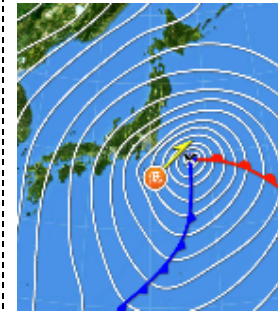
### ◎茶華道体験(3-3)

1月16日(水)環境緑地科3年生を対象に日本の伝統文化を体験することで造園への理解を深める目的で「茶・華道体験」が実施されました。本校茶道部講師「大石幸枝」先生の指導のもと本館2階の和作法室で、同じく本校華道部講師の「古田悦子」先生の指導のもと、本館1階家庭科実習室でそれぞれ行われ、日本の伝統文化に触れる貴重な機会となりました。



### ◎平成24年度 修学旅行を総括する

第2学年主任 泉 信至



【1月14日PM3:00の天気図】 ということ、もう一つは「その際の生徒の動きに秩序が保たれ、生徒全体が動きに無駄なく整然と対応できていた」という2点である。修学旅行初日の生徒の動きは彼らのこれまでの成長を実感させるものだったと言ってよい。

修学旅行初日、心配していたインフルエンザなどによる当日欠席もなく、集合時間の10分前には理由があった1名を除いては全員が揃った。予定より30分程遅れて福岡空港を離陸。羽田空港に到着したのはPM12:30頃だったが、その頃から様子がおかしかった。着陸寸前から耳慣れない「バシバシッ」という音が外から繰り返し鳴っていた。「おかしい?」と思いながら羽田空港を見ると一面銀世界。通常この時期

ではあり得ない光景だ。本来なら生徒は長野で銀世界に歓声を上げるものだが、すでに羽田空港で驚きの声。実はこの日東京は予想外の大雪に見舞われていた。いわゆる「爆弾低気圧」が発達したということでバスの運転手に聞いても「これは20年ぶりの大雪だよ」とのこと。あとで正確に調べてみるとさらに驚いたのが、実は気象庁の記録では1月14日に東京で積雪があったのは1961年以降では記録がない(!)。つまり20年前にも実は積雪の記録はなく、少なくとも52年以上この日に積雪は観測されていなかったのである。つまり半世紀以上ぶりの積雪はこの日最大8センチにもなり、雪に弱い大都市の交通網は大混乱に陥った。

その影響は我々の修学旅行団を直撃し、まず機内で30分程度待機してようやく降りたら、移動のための高速バスが積雪でストップしているとの情報。急遽JTBにお願いして代替手段をとってもらいモノレールと山手線を使って東京駅まで行こうとするも、この時またもや積雪により一時山手線が止まったとの情報が入る。生徒を羽田空港内に待機させ、最新の情報を探しながら刻一刻と変わる交通情報を確認しながらの時間は今回の修学旅行で一番緊迫した場面となった。

いったんバスで東京駅まで行こうとしたが、雪で遅々として進まないため羽田空港までUターンして再度モノレールに乗り換えて、さらに浜松町で山手線に乗り換えて東京駅まで移動。さらにそこから高速バスで長野まで移動しようとしたが、増してくる積雪に高速バスが使えず、これも急遽JTBにチケットをとってもらって生徒全員を新幹線に乗り換えて長野まで輸送し、長野駅から高速バスでホテルまで移動という、本当に非常事態的な輸送ラインで何とか初日中に長野まで生徒全員を運ぶことができたのである。ホテルに到着したのは21時過ぎ。生徒にはすぐに食堂に入って夕食をとらせ、すぐに入浴。そのあとは簡単な係別ミーティングをしてすぐに就寝点呼。結局生徒が消灯したときは午前零時を過ぎていました。

長々と初日の様子を述べましたが、とにかく記録的な積雪の影響をもろに受け、臨機応変な対応によって何とかホテルまでたどり着いたというのが初日の全てでした。話を聞くと当日同じように東京に来ていた他校の修学旅行団のなかには羽田から飛行機が動かず、緊急避難的に東京に宿泊することになりスケジュール自体が縮小した高校や、同じ長野を目指していた高校ではホテルに着いた時点で日付が変わっていた高校もあったと聞きました。

そのなかで我々がその日のうちにホテルに到着することができたのは本当に奇跡に近いことだったと言えます。あと1本飛行機が遅れていたなら、あと1

本電車が、バスが遅れていたなら、どうなっていたか全くわからない状況でした。そういう意味で対応としては結果オーライだったわけですが、それを可能にしたのは職員やJTBの適切な状況判断だけではありませんでした。それはその場に出された臨機応変な指示に対して2学年生徒が適切な行動を全体としてとることができたという点が大きかったと言えます。

上述したように、初日のスケジュールはかなり変則的なもので当初の予定とは大きく異なるものでした。さらに刻一刻と交通状況が変化するなかで、モノレールや山手線や新幹線に196名の生徒全員が乗り遅れることなく、整然と並び待機をして次の指示を待てる状態を常に保っていたことは素晴らしいことだと思います。入学時から指導してきた「状況判断」の大事さを生徒が理解し、昨今の悪しき風潮でもあるやたら「個」だけを主張するのではなく、まず「全体と調和する」なかで「個」を活かしていく姿勢の重要性を実践的に具現化できていたと思います。生徒のそのような態度や状況判断がなければ初日に長野に到着することは難しかっただろうと思います。JTBの担当者も生徒の動きには本当に感心されていました。天候的には全く恵まれない初日でしたが、生徒の成長を具体的に目の当たりにできたという点では意義深い初日だったと言えます。

2日目は前日の余波を受けて30分起床を遅らせたスタート。予定通りスキー教室は開講されましたが天候はやはり低気圧の余波で吹雪に近い状態でした。積雪量は十分過ぎるくらいだったのですが、視界が今1つだったのと風が強かったために体調不良者が出て心配したのですが、その多くが再び復活して午後からのスキー教室に参加していったことは逆に頼もしく思いました。生徒の大部分はスキーが初めてだったので、最初の動きはぎこちなかったのですが、福岡とは異なる長野の雪質と自然豊かな風景を楽しみながら歓声を上げていたのが印象的でした。

3日目は早くもスキー最終日。ここから修学旅行最終日までには本当に劇的に天候が好転し、快晴に恵まれました。昨日までの天候が嘘のように朝から晴れ渡り、白く輝くゲレンデが目の前に広がっていました。80年代の映画である「私をスキーに連れてって」の舞台となったのが納得できるような雄大かつ美しい光景のなかで生徒はスキーを楽しみました。生徒のなかにはリフトを利用して山頂(2307m)まで登り、遠くに見える富士山を探したり、浅間山を見つける生徒もいました。午後以降はかなりの生徒が滑れるようになっており上達の速さに驚くとともに、多くの生徒が「もっと滑りたい」と言いながらスキー教室を終えることになりました。

4日目は恐らく生徒がある意味一番楽しみにしていた「東京ディズニーランド研修」でした。いつもよりも朝の動きが迅速に思えたのは気のせいではなかったと思います(笑)。「楽しむだけではなく、サービスマスの現場も学んできてほしい」というのが研修の趣旨だったので、生徒は十分楽しんでいたのでないかと思えます。ここで私が心配していたのは「時間を守って行動できるかどうか」という点でした。楽しい場所がゆえに「もう少しなら大丈夫だろう」という気持ちが生じて結果的に全体に迷惑をかけること、前述したように「個」ばかりを優先し「全体との調和のなかで個を活かす」という姿勢が崩れてしまうことを危惧していたのですが、生徒はきちんと時間を守って行動することができていました。この姿勢を常に大事に今後も過ごして欲しいと思います。

最終日は引き続き快晴のなかでの「東京タワー」研修。青空と東京タワーの赤色のコントラストが見事で本当に絵になる風景だったと言えます。生徒は東京タワーの展望台から見える東京の街並み、スカイツリーや国会議事堂、東大、霞が関、富士山などが一望できる風景を次々とカメラに収めていました。東京タワーのあとは羽田空港に向かい、最後のお土産購入を空港内で済ませてから搭乗し、PM2:40に福岡空港着。その後解団式を経てPM3:00には解散となり、予定通りのタイムスケジュールで生徒は家路に就くことになりました。

全体を振り返ると、前半は予想外の悪天候で臨機応変な対応の連続、後半は劇的に天候が回復し快晴の連続となり、結果だけをみれば予定以上に中身の濃い修学旅行だったと言えます。私自身これまでに何回も修学旅行引率に参加してきましたが、今回のような修学旅行ははじめてであり忘れることができない印象深い修学旅行となりました。生徒は初日特に大変だったと思いますが、よく対応できていたと思います。あとは生徒が学校での通常生活に戻ってからの、今回の経験をどう活かしていくのか?修学旅行が終わればあとは進路一色。進路決定に向けた様々な動きが生徒個人に求められる中で、今回の修学旅行(研修)が何か生徒にプラスになることを与えてくれたであろうと期待しながら今後の生徒の動きを見守り、指導していきたいと思えます。

最後になりましたが保護者の皆様の修学旅行に対するこれまでのご協力に心から感謝しております。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

